

道の駅のデジタル・アーカイブ化を用いた地域文化情報資源活用の研究

白木 希*1

「道の駅」の特性として憩いの場所から、人々の交流・地域の観光紹介・地域の情報提供まで、多様な利用がはじまった。とくに、地域の情報振興に配慮し、地域情報・道の駅がもつ情報・周辺地域のもつ文化・自然等の情報提供が道の駅間および、地域と道の駅の連携と地域振興のために必要である。

このため、今回、道の駅を中心にした地域情報を提供・流通させる情報システムの構成・方法の研究を行った。

<キーワード>文化情報、地域文化、観光、道の駅、デジタル・アーカイブ、情報管理

1. はじめに

道の駅は、最初の目的として、旅行の休憩施設に利用されていたが、最近では、憩いの場所、地域の情報提供、地域の人々と交流の場所となってきた。

地域や近隣の市町村を知ることが手助けする施設に変わりつつある。

また、施設の造りもその地域独自のものが多く、その地域や町を知る地域振興施設としての役割も強くなってきている。今回、岐阜県内、北海道などの多くの「道の駅」について実際に撮影調査活動をする中で、「道の駅は、どんな事がきっかけで、また、どんな機能・サービスがあればいいのだろうか」と考えるようになってきた。

現在、全国の道の駅は845ヶ所あるが、その中で、岐阜県は47ヶ所あり、北海道の次に多い県である。さらに、多くの道の駅が現在も増え続けている。その中で、最近言われていることは「道の駅」間の連携と「道の駅」と地域の連帯である。そのため、まず道の駅がもつ「連携・連帯」の機能について調査・研究を進め、その中から、いろいろな分野での方向性を見出すべきだと考えた。しかし、全ての分野についての調査・試行研究は時間的に困難である。

そこで、「道の駅 白鳥」を中心とした、地

域の情報資源の流通機能とその活用方法について次のように試行研究を進めた。

①道の駅の地域文化情報資料提供のセンターとしての役割、および、周辺地域情報の提供への適用方法について研究を行う。

②その例として、岐阜県郡上市白鳥の「道の駅 白鳥」を中心に研究を行う。

(1) 調査研究地域

「道の駅 白鳥」には、道の駅を中心として、白山文化で知られる、長瀧白山神社、白山長瀧寺、白山文化博物館、白山中居神社、若宮修古館がある。そのほかに、歴史的な文化資源やスポーツ関係施設などが多くある。また、「道の駅 白鳥」のある白山地帯は、福井県・石川県と連携した世界文化遺産としての方向性も考えられており、今後この地方での観光資源として重要な位置づけになると考えられる。そこで、「道の駅 白鳥」を例として、道の駅のもつ情報提供の機能を高める方法について研究を進めることにした。

(2) 情報提供システムの構成の研究

「道の駅」で提供される地域情報は、施設としてもつ情報と、地域がもつ関連情報で構成されている。道の駅の施設がもつ情報には、地元で生産されている農産物から道路情報まで多様な情報がある。

*1 SHIRAKI, Nozomi : 岐阜女子大学

地域がもつ情報は、寺社をはじめ文化財、文化活動についての地域文化、観光等の情報がある。そのため、多くの人々が、その地域について知りたいと考えたとき、どのように分類がされていると情報を収集しやすいかと考えた。情報を、組織化して、1つにまとめて提供されているとより利用しやすくなると考え、組織化した情報提供システムを構成することにした。

そこで、次のような手順で研究を行うことにした。(図1)

(a) 「道の駅」および周辺地域

どのような情報が存在しているか調査する。

(b) 情報のカテゴリー化

調査した結果をまとめ、それらを管理するのに必要な情報カテゴリーを構成する。

(c) 情報提供システムの記録方法

情報カテゴリーから、どのような記録項目が必要か分析し、項目を決定する。

(d) 利用の視点での情報カテゴリー

これまでに、観光情報として、どのような分類(情報カテゴリー)で情報提供されているか調査分析をする。この情報カテゴリーと地域・道の駅のもつ情報の関連性を分析し、人々が「道の駅」や周辺情報を調べたときに通ずる情報カテゴリーを決める。

(e) コンテンツの制作とシステムの構築

「道の駅」を中心とした情報提供システムを構築する。

とくに、(a)、(b)、(e)は、「道の駅」の調査と近くにある文化財、各公共施設、スポーツ関連施設、社寺など多くの情報を調査収集し、整理していく必要がある。

そこで、「道の駅」と周辺の文化・自然・産業等の各分野で特色ある資料を調査し、情報の収集を行い、それらを、分析、整理をすすめることにした。

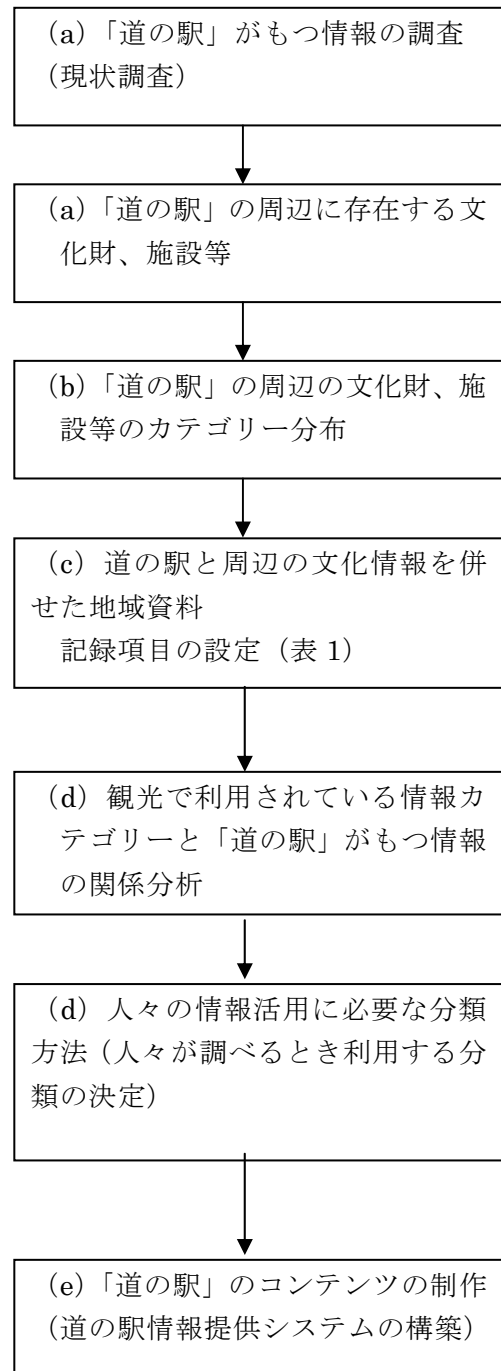


図1 研究手順

2. 「道の駅」の情報提供の現状

現在の道の駅のホームページでは、基本情報として、施設内容、施設の写真、駐車場数、営業時間、定休日、地域の名産品、問い合わせ先、地図、アクセス方法、近隣観光地が提示されている。他には、医療情報、近隣の道

の駅情報が提示されている。しかし、北海道では、北海道開発局が運営している道の駅情報システムというのがある。そこでの情報は、道路情報、道路画面、天気情報、みどころ、暮らし情報、公共交通、他の道の駅、お知らせが表示されている。また、利用の仕方も簡単で、地図上に表示されている道の駅を指定するだけで、情報を得ることができ、また、リアルタイムで変更されているため、遠くからでも、事前に知ることができる。

「道の駅」による地域連携面では、地域の人々、各施設との連携が広がりを見せはじめた。例えば、「道の駅」を介して、地域の人々が作った農産物などの提供や、行事・文化活動の紹介など、地域内外への物や情報の提供・流通が行われてきた。すなわち、町と町の地域内外を含め、「地域の連携機能」と、「情報発信機能」が相互に作用し、新しい地域間の情報の提供が行われてきた。しかし、まだ、これらの情報は、1つのまとまった情報システムとして構成されるまでに至っていないのが現状である。

3. 「道の駅」のもつ地域情報

「道の駅」の現状調査として、文化情報研究センターの支援を得て、県内34ヶ所の道の駅と道の駅周辺の文化、スポーツ、生涯学習関連の施設、文化活動の記録を行った。

道の駅では、道路案内をはじめ、現地ではか買えない特産物や名物を展示販売しているほか、近隣の市町村の観光施設や体験施設の情報の提供をしている。

「道の駅」が提供する情報は、利用者にとって地域の観光、産業、文化等の多様な状況を知ることができる。これらの情報をさらに、詳しく知るため、自然体験、文化財等のパンフレット（案内）の提供や、キャプテンシステムやインターネットの通信ネットワークを用いた情報提供がある。

これらを調べると、地域の多様な情報が提

供されているが、地域の観光、文化情報、スポーツ、自然、食、産業、教育等の地域文化情報を整備し、さらに、利用目的に応じた情報提供を可能にすべきだと考える。

このため、「道の駅」がどのような情報を提供できるか、調査し、そのコンテンツの構成をした。その一例として、「道の駅 白鳥」をあげ、提供されていた情報を表1に示した。

表1 「道の駅 白鳥」の情報提供

表1に示したのは、道の駅がもつ情報であ

地域の産業物情報	内容
農産物	山菜、野菜
生花	切花、鉢植え
加工品 (農産物)	漬物、そば、
特産物	奥美濃カレー、ハム、しそ梅、こんにゃく、こも豆腐
食品	豆腐のお菓子
施設案内	白山文化博物館、岐阜県の温泉マップ、岐阜県博物館、スキー場、高速道路案内
ホワイトボード	スキー場の積雪情報
地図	ポスター、掲示板
行事	六日祭、でででん祭り
医療情報	端末表示
その他	アルバイトのお知らせ

り、その他に、多様な地域情報が提示されている。また、四季折々の地域の特色ある情報が提示されている。

次に提示された情報の具体例を図2から図5に示した。



図2 情報提供



図3 地元の農産物



図4 白山文化博物館



図5 でででん祭

4. 「道の駅」の地域情報の構成

「道の駅」の地域情報には、前述した調査で得られたように、道の駅の施設がもつ情報が考えられる。

また、地域の文化財、文化施設、文化活動、産業、教育、観光等を調査し、駅がもつ情報に地域の情報を追加した情報提供システムを構成すべきであると考えられる。

そこで、道の駅で提供できると考えられる地域情報の構成を図6に示した。

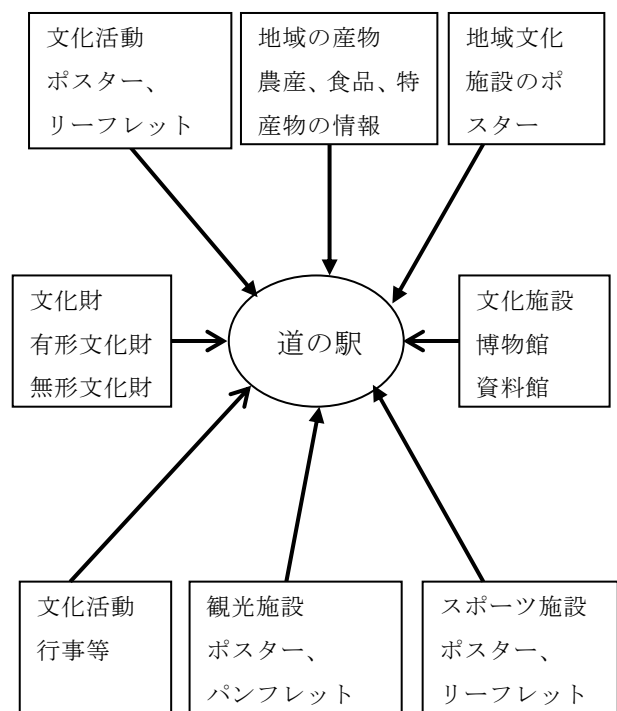


図6 道の駅の地域情報の構成

5. 「道の駅」の周辺の文化施設・文化財等について

「道の駅」の周辺には、観光資源、教育資源として、多くの文化活動がみられ、文化施設や文化財等が存在している。これらの現状を調べ、その中から「道の駅」関連の情報として提供が可能な内容について検討する必要がある。そこで、岐阜女子大学文化創造学部の浅野弘光教授に提供していただいた、「道の

駅『構成要領』をもとに、岐阜県内の「道の駅」を中心にした文化施設、文化財等の資料をもとに 39 ヶ所にある各「道の駅」の特色をまとめた。

各資料の出現頻度の分布は、図 7 に示すようにまとめることができた。

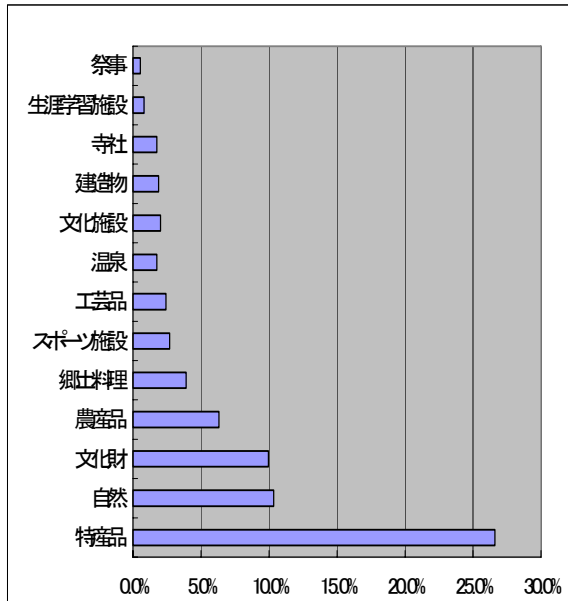


図 7 道の駅周辺の特色ある資料の分布

この分類項目を中心にして、「道の駅」がもつ周辺地域の資料表を作成することができた。しかし、この研究に存在している資料の分類と、利用者が調べやすい分類項目は別であり、これらの二面をもつ表の作成が必要である。これを次に説明する。

6. 道の駅を中心とした情報提供システム

利用者が調べる分類項目としては、「見る・食べる・遊ぶ・学ぶ・知る」の 5 つにわけた。

「見る」「食べる」「遊ぶ」の 3 つは、観光情報を提供するときの観点をもとにした。多くの旅行雑誌では、「るるぶ」(JTB) で代表されるように「見る・食べる・遊ぶ」のようなカテゴリー化がされている。また、他の旅行雑誌でも、この 3 つは必ず入っている。一般的にこれらの情報との整合性をもたせる

ために、まず、この 3 分類を採用し、さらに「学ぶ」と「知る」を追加した。

「学ぶ」では、学校教育、地域学習、生涯学習、文化に関する学習資料などとして位置づけられる資料と施設が道の駅を中心にして多く存在している。このため、これらの学習に関連する資料が調べられるようにした。

「知る」分野では、地域内の公共施設、観光施設など多くの施設・機関があり、これらは、それぞれのホームページや各種情報提供をしている。そのため、これらの情報源を提供すべきと考え追加した。

道の駅の基本的な調べる視点として、図 8 に示したように、地域がもつ情報分類と利用者が調べるための分類をクロスさせた情報提供システムを構成することにした。

その一例として、「道の駅 白鳥」を題材に表 2 のような分類表を作成した。

地域がもつ情報分類の例として、寺社などの宗教施設では、長瀧白山神社、白山長瀧寺、白山中居神社があり、それらは、利用者が調べるための分類では、見る、学ぶに分類される。

利用者が調べるための分類

	見る	食べる	遊ぶ	学ぶ	知る
地域がもつ情報分類					
寺社等					
博物館					
生産物					
・					
・					
・					

図 8 カテゴリー表

表2 「道の駅 白鳥」の分類

	見る	食べる	遊ぶ	学ぶ	知る
寺社などの宗教施設	長滝白山神社 白山中居神社 白山長瀧寺			長滝白山神社 白山中居神社 白山長瀧寺	
博物館などの施設				白山文化博物館 若宮修古館 日本土鈴館	
文化施設				白山文化博物館 日本土鈴館	白山文化博物館 日本土鈴館
生涯施設			スキー場 白山長瀧公園		
地域の生産物		しそ漬梅 そば みそ			
歴史的建造物				長滝白山神社 白山長瀧寺 若宮修古館 爛柯亭	
スポーツ施設など			スキー場 白山長瀧公園		
自然	阿弥陀ヶ滝 いとしろの大杉				阿弥陀ヶ滝 いとしろの大杉
芸能	長滝延年の舞				
行事祭事	長滝延年の舞 ででん祭り 白鳥踊り				
地域振興施設		道の駅			道の駅
学校など教育施設				小・中学校	
保養所			温泉		

7. 情報提供のコンテンツ

情報構成したコンテンツの例を次に示す。このコンテンツでは、表2で示した分類項目の「見る」「食べる」「遊ぶ」「学ぶ」「知る」から利用者が選択することによって、必要な各映像資料を見ることができる。



図9 道の駅のコンテンツのトップページ



図10 「見る」メニュー画面



図11 見る：長瀧延年の舞



図12 見る：拝殿踊り

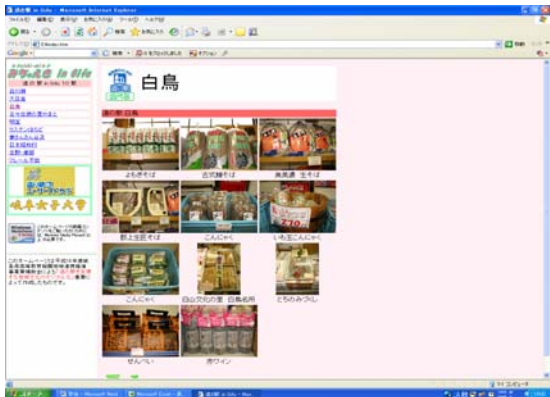


図13 「食べる」メニュー画面



図14 食べる：こんにゃく



図15 食べる：そば



図16 「遊ぶ」メニュー画面



図17 遊ぶ：長瀧白山公園



図18 遊ぶ：長良川



図19 「学ぶ」メニュー画面



図20 学ぶ：日本土鈴館



図 2 1 遊ぶ：日本土鈴館 展示物

図 9 から図 2 1 に示したように、「道の駅 白鳥」のコンテンツは、トップページに「見る」「食べる」「遊ぶ」「学ぶ」「知る」の 5 つの分類項目が表示される。その中から、希望する項目を選択すると、分類毎のメニューが表示される。メニューの中から、希望する資料を選択することによって、利用者は必要な情報を得ることができる。

8. おわりに

「道の駅」の基礎資料を情報提供システムとして提供するには、どのように情報カテゴリーを構成し、情報を提供していくかが重要となる。このため、本研究では、利用者用のカテゴリーと情報発信源のカテゴリーの両方向から検討できるシステムを構成した。

今後は、これらの方法を用いて、多くの「道の駅」について試行し、その適用結果の利用調査を進め、改善すべきだと考えている。

謝辞

今回の卒業研究にあたって、各道の駅のスタッフの方々のご協力を得て、データ処理、撮影等については、文化情報研究センターおよび NPO 法人地域資料情報化コンソーシアムの方々に全面的な協力をして頂いた。これらの方々のご指導、ご協力に厚く感謝の意を表します。

また、2年にわたり指導していただきました、後藤忠彦教授をはじめ文化情報メディア学科の先生方には大変お世話になりました。改めて感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 津端宏・山本直人 (1995)、53 『道の駅』、株式会社建築資料研究社、208pp
- 2) 内山弘美 (2002) 『るるぶ 岐阜』、JTB、144pp
- 3) 高瀬編集事務所 (2004)、『たびまる 京都』、昭文社、255pp
- 4) 三輪聖子・加藤真由美・犬飼麻奈美・白木希 (2005)、『地域の生活文化の教材と小学校教育の課題』、岐阜女子大学 文化情報研究 7(1)、28-32pp
- 5) 白木希ほか (2006)、『道の駅のデジタル・アーカイブ化を用いた地域文化情報資源活用の研究』日本教育情報学会、242-243p